



# 洋上アルプス

No.313

2021年4月5日

発行  
林野庁屋久島森林生態系保全センター



バックナンバーや屋久島国有林における入林申請等は  
こちらにあります  
[http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima\\_hozen\\_c/](http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/)



鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1

TEL0997-42-0331 FAX0997-42-0333

## 第5回小杉谷閉山50周年現地検討会

(2月24日)

小杉谷小中学校跡において、来年度開催予定の「小杉谷閉山50周年記念祭」の第5回実行委員会が行われました。

会場整備は屋久島山岳ガイド連盟、観光協会ガイド部会及び屋久杉自然館の協力により、自生したスギや広葉樹の伐採、



整備された小杉谷小中学校跡

搬出が行われ、広々としたグラウンドや公舎跡地が姿を現しました。検討会では、メイン会場の設営方法や、トイレ設置、記念植樹等について多くの意見をいただきました。今後も検討会を重ね、10月に開催される記念祭の成功に向けて取り組むこととし閉会しました。



実行委員会による現地検討会

## 令和3年「屋久島森・水開き」安全祈願祭の開催

(3月13日)

屋久島では本格的な登山シーズンの到来を迎え、入林者、利用者の安全を祈願するため「屋久島森・水開き」安全祈願祭(屋久島観光協会主催)が白谷雲水峡において行われました。

当日は晴天に恵まれる中、保全センター所長、森林管理署長をはじめ、屋久島自然保護官事務所、熊毛支庁、屋久島町議会、役場、消防、警察など多くの関係機関が参列し神事が執り行われました。



安全祈願祭の様子

昨年は、森林レクリエーションの森を訪れる利用者が激減し、厳しい運営を強いられました。当日は白谷雲水峡へ124名が訪れるなど、シーズン当初から幸先の良いスタートとなりました。

## 縄文杉登山をされる皆様へ

縄文杉周辺につきましては、植生の回復を講じるために縄文杉周辺を立入禁止区域とし侵入防止柵を設置して保全活動を実施しています。しかしながら立入禁止区域内に侵入するルールを無視した登山者が見られます。

屋久島の象徴である縄文杉を守るため、必ずデッキから観賞し立入禁止区域内には入らないようお願いします。



縄文杉立入禁止区域に入るルール違反の登山者

## 西表森林生態系保全センターとの意見交換について (3月9~11日)

屋久島森林生態系保全センターの職員2名は、西表森林生態系保全センターの希少な植物の保全活動や、森林環境教育、外来種対策を学び、意見交換を行うために西表森林生態系保全センター管内へ出張しました。

1日目は、西表島において、マングローブをはじめ希少な植生を保全するために、独自の調査プロットを設置し、調査・研究している旨の説明がありました。その後、環境省の西表野生生物保護センターにて、イリオモテヤマネコをはじめとする多くの野生生物の保護に対する普及啓発活動・保護増殖事業についての説明を受けました。

2日目は、西表島において、入込者や国有林における観光資源の利用方法について意見交換を行いました。また、外来種



ぼんこん  
大きな板根に遭遇

対策として行っているツルヒヨドリやアメリカハマグルマの試験箇所について説明を受けました。

3日目は、西表森林生態系保全センターにおいて両センターの取り組みを紹介し、その中で森林環境教育の画期的な実施方法について、永山生態系管理指導官よりアドバイスをいただきました。今後も両センターの取り組みについて情報共有することを確認し終了しました。



西表石垣国立公園を案内板により確認中

## 令和3年度 屋久島森林生態系保全センター業務計画

屋久島森林生態系保全センターでは令和3年度の以下の業務を計画しています。

### 1 森林生態系保全業務

- (1)職員と森林保護員(GSS)による世界自然遺産地域等のパトロール
- (2)森林生態系モニタリング調査(屋久島東部地域の植生調査等、高層湿原保全対策)及び著名ヤクスギ等の樹勢診断
- (3)アブラギリ等外来種対策(駆除比較試験、行政連絡会との連携)
- (4)気象モニタリング(雨量、気象観測等)
- (5)ヤクシカ対策(植生保護柵管理、有害鳥獣捕獲等)

### 2 普及教育及び森林空間総合利用等

- (1)森林環境教育、「屋久島森の塾」等の実施(他機関との連携協力)
- (2)屋久島レクリエーションの森保護管理協議会等への指導・助言

### 3 その他

- (1)関係機関等との連携・協力
- (2)広報誌「洋上アルプス」及び年報の発行
- (3)学術調査研究等に係る入林手続き
- (4)ホームページの更新及び充実
- (5)各種資料のデータベース化(雨量観測、学術論文等)

### 人の動き

#### 3月31日付退職

- 山部 国広(自然再生指導官)
- (4月1日付 屋久島森林管理署 宮之浦首席森林官)

#### 4月1日付転入

- 係員 森 晴可(長崎森林管理署 係員)

# 屋久島登山の魅力について（第1回）

## —— 屋久島の雪山 ——

古賀 顕司（屋久島山岳ガイド連盟 代表）

屋久島は島とは思えないほど山が高く、そして深い森があります。海から見ると洋上のアルプスと表現されるにふさわしいと思っています。屋久島でガイドを始めて21年になり、私なりに感じた屋久島登山の魅力をお伝えいたします。

1回目は屋久島の雪山について書いていきます。

屋久島は南の島で雪は積もらないと思っている方も多いと思います。実際、麓では雪が時々降ることはあっても、積もることはあまりありません。

ところが、山岳部では深いところで3mほど積もる場所もあるのです。「冬の山、寒いのになんで登るの?」と聞かれることが多いのですがどんな魅力があるのでしょうか。

一番に言えるのは美しさです。冷たい空気は凜としていて、一面真っ白な山の風景は神々しさすらあります。途中で出会う樹氷がついた屋久杉や花崗岩のかたまりなどは、屋久島ならではの風景だと思います。

では屋久島の雪山でおすすめのコースを紹介していきます。

雪山初心者向けは、「白谷雲水峡、太鼓岩往復」です。入口の標高が600mなので、入口付近は雪が積もることが少ないので比較的アクセスがしやすく、車で登山口まで行くことができます。太鼓岩まで登ると、遠くに真っ白な宮之浦岳も見ることができ、途中の森も積雪があると雪山気分を味わうことができます。日帰り登山で屋久島の雪山を体験できる数少ないルートです。

上級者向けでは、「白谷雲水峡から宮之浦岳往復」のコースがあります。「白谷雲水峡から宮之浦岳往復」は最低3泊必要です。1日目は白谷から高塚小屋または新高塚小屋まで行き宿泊、2日目に小屋から宮之浦岳往復、3日目、小屋から下山。

冬は天候が安定しないため小屋で待機する可能性があるため、最低5日分の食料は必要でしょう。

新高塚小屋から先は腰まで埋まるラッセル、雪で枝が垂れ下がったヤクシマシャクナゲのトンネルを匍匐前進するなどの困難を乗り越え、稜線の強風、雪崩の危険を考えたコース取りなど雪山上級の知識と体力が必要なコースです。ただその先には、言葉では表すことができないほどの美しい宮之浦岳が待っています。

屋久島の雪山について簡単に書きましたが、屋久島の山にも確実に地球温暖化の影響はでていきます。50年前は4月中旬まで残っていた雪ですが、根雪にもならない年もでてきています。このまま温暖化が進めば屋久島の雪山の風景も見ることが出来なくなるかもしれません。

今回は春から初夏の山について書きます。（つづく）



樹氷におおわれた屋久杉



冬の永田岳山頂



## 屋久島西部等地域の垂直方向植生モニタリング（令和元年度）

1. 目的 垂直方向の植生モニタリング調査は、平成11年度から屋久島を5つの地域に分け、それぞれ5年ごとに継続して実施し、過去の植生等の変化を見るときに今後の動態の予測を行い評価するものである。令和元年度は、屋久島西部を対象とし、平成16年度に設定したプロット（標高0m地点から標高1300m地点までおよそ標高200m毎に設定）及び、前回（平成26年度）に拡張したプロットにおいて、5年経過後の植生変化や林分構造（階層構造）等を観察した。

### 2. 調査項目

- ・プロットの設定箇所の位置・地形等概況把握
- ・毎木調査・下層植生調査、階層構造把握
- ・シカの影響調査
- ・種別標高別の出現植生リスト作成
- ・階層区分植生調査
- ・階層構造模式図、群落配分図の作成
- ・過年度との比較・考察

3. 調査地点 調査プロットの遠景写真を図-1に、調査プロットの位置を図-2に示した。（図-1は西部林道河原付近から見た写真。標高1200・1300mプロットは、遠距離（直線約2km）から見上げているので、プロットごとの標高差の遠近感が異なる。）

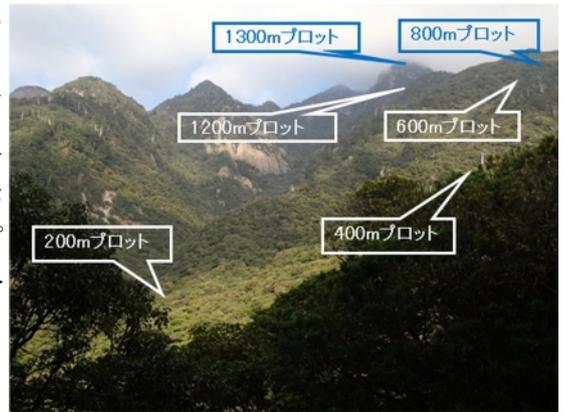


図-1 西部林道から見た調査地の状況

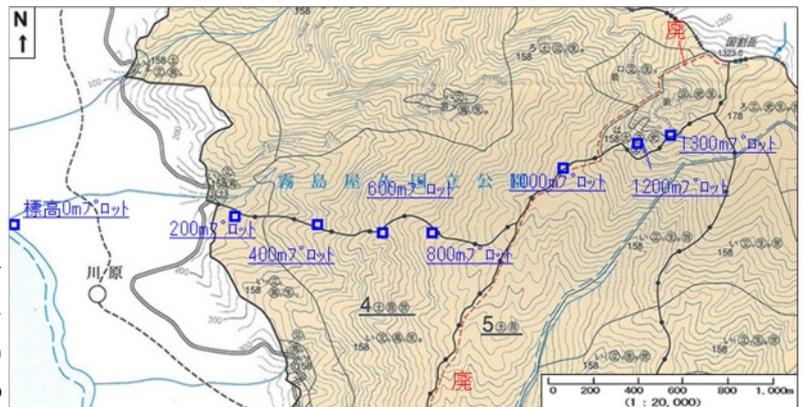


図-2 植生垂直分布調査地点位置図（国有林野施行実施計画図より）



## 自然休養林情報

### ヤクスギランド⑦ 天文の森コース その1

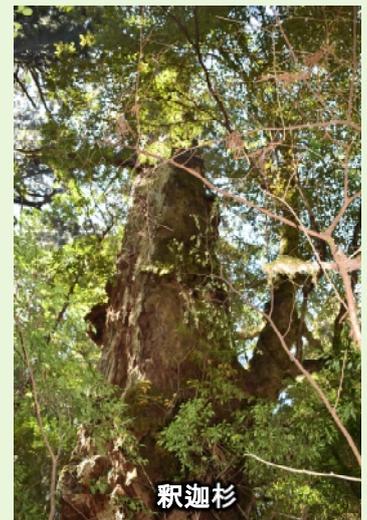
天文の森 210分コースは、標高1000m～1200m、延長約4.4km、所要時間約3時間30分のコースで、「雲霧林」とも「蘚苔林」とも呼ばれる幽玄な苔に包まれた森を鑑賞、満喫することができるコースです。

このコースは、ほとんどが登山道でヤクスギランド入口から標高差は、約200m、アップダウンの多い登山道を約3時間歩くため、体力的にきついコースです。

既存の150分コース最奥、蛇紋杉の分岐点からさらに太忠岳方向に約0.7km「天文の森」の「釈迦杉」までの往復を加えたコースは片道約30分で散策できます。

天文の森コースでは、苔むした藩政時代の伐採跡地や屋久杉巨樹・著名木である「小田杉」、屋久島三大針葉樹のスギ・ツガ・モミなどを身近に鑑賞することができ、鑑賞できる順に2回にわたりご紹介していきます。

最初に鑑賞できる藩政時代の屋久杉伐採跡地では、屋久杉の切株に着生したヤマグルマの切株更新を見ることができます。江戸時代に伐採された屋久杉はやぐらを組んでまっすぐな幹の部分から切り倒されたため、ごつごつした根の部分は切株として残されたことがみてとれます。



釈迦杉

